

この部分は本誌を御覧下さい

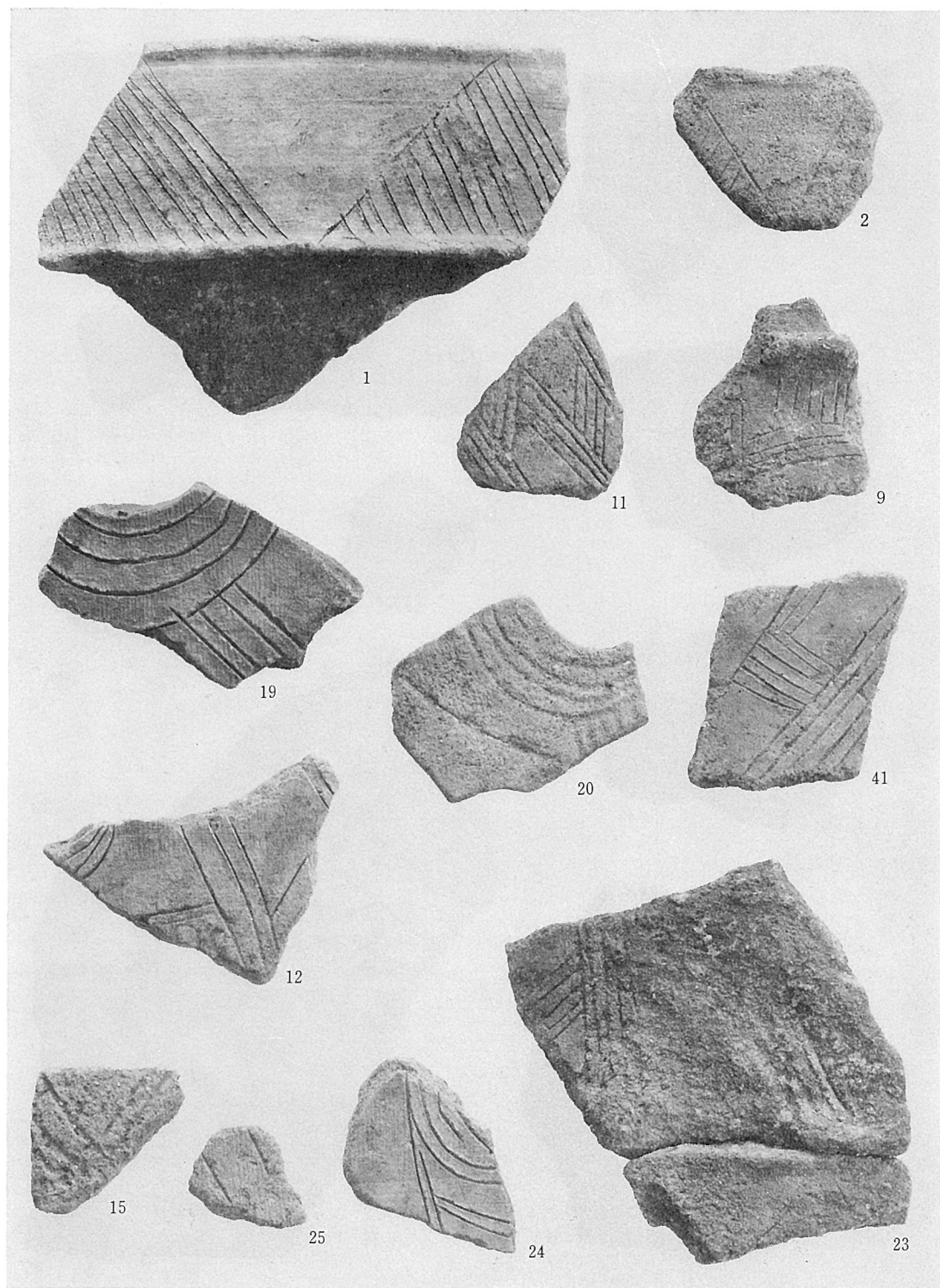
---

白鶴美術館所蔵『手鑑』部分

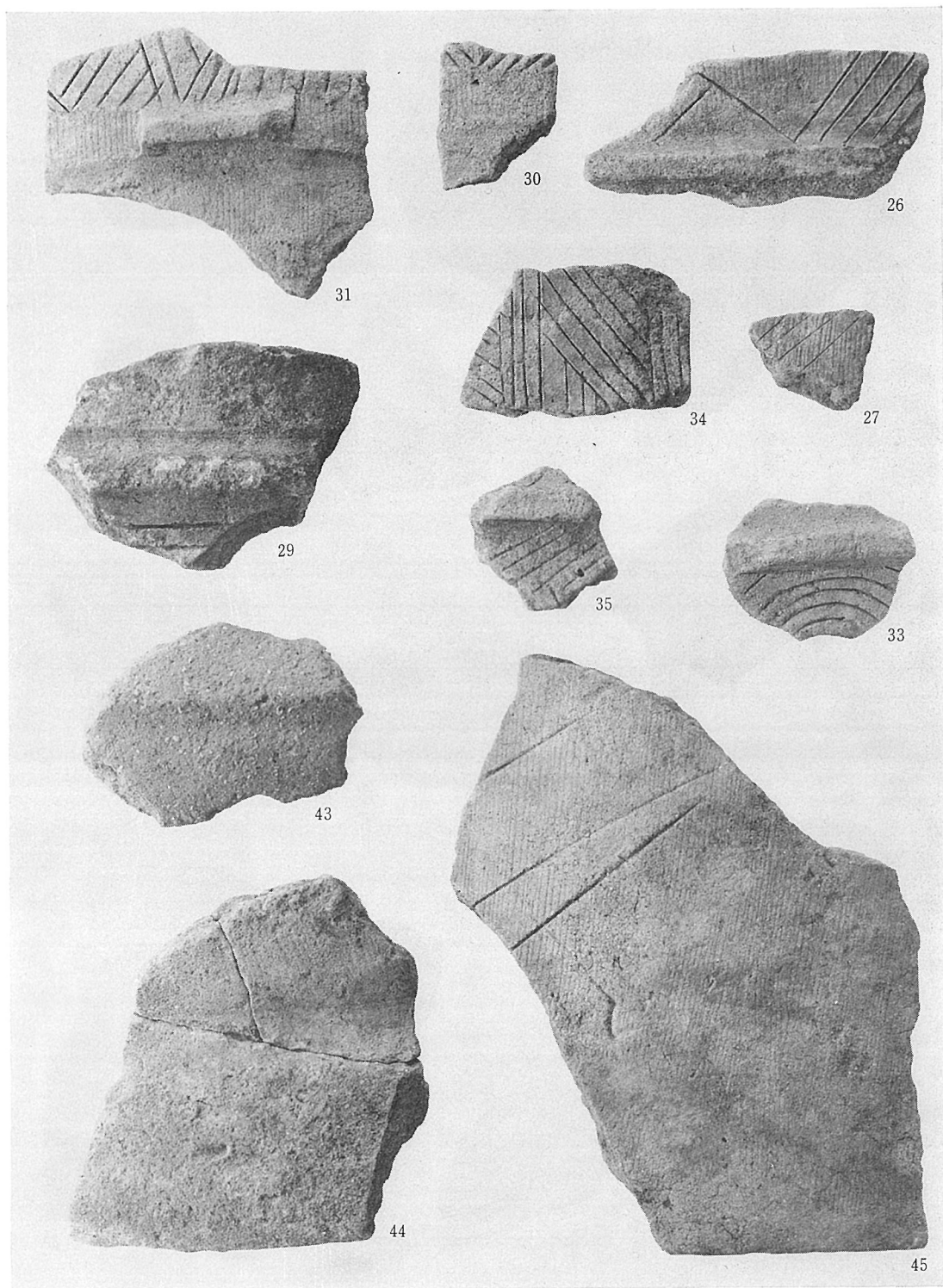
この部分は本誌を御覧下さい

三井文庫所蔵『高察帖』部分

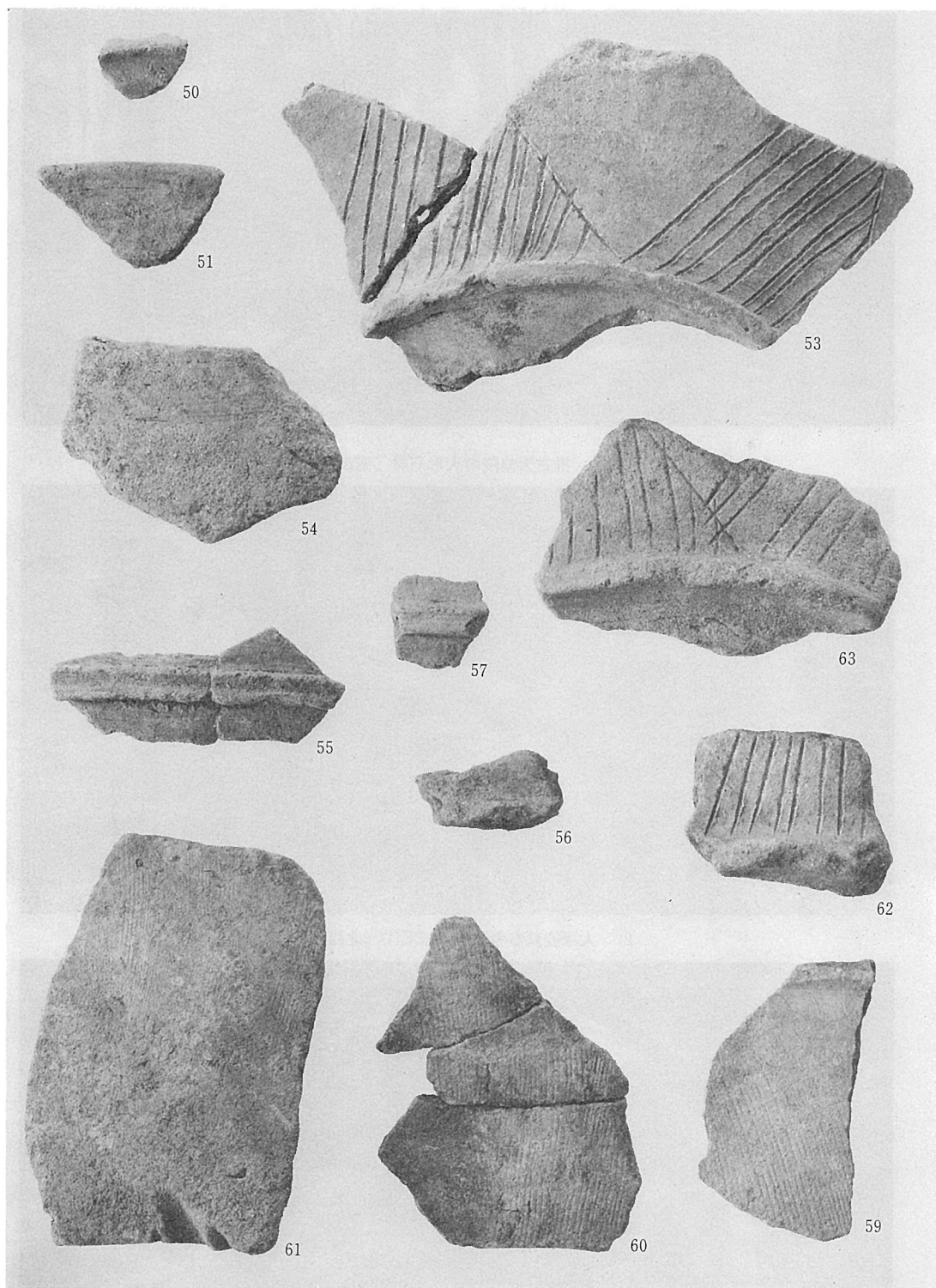




衾田陵の出土品(1) (1/2)



衾田陵の出土品(2) (1/2)



衾田陵の出土品(3) (1/2)



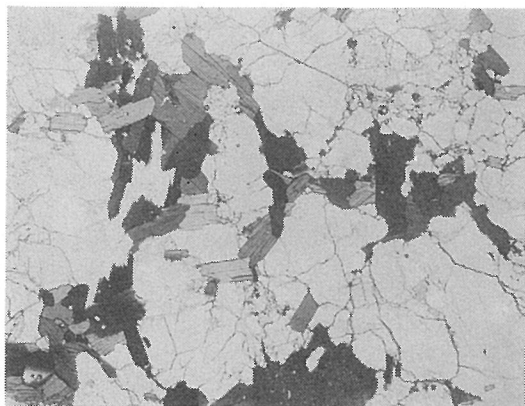
1. 推古天皇陵の大形石材（南から）



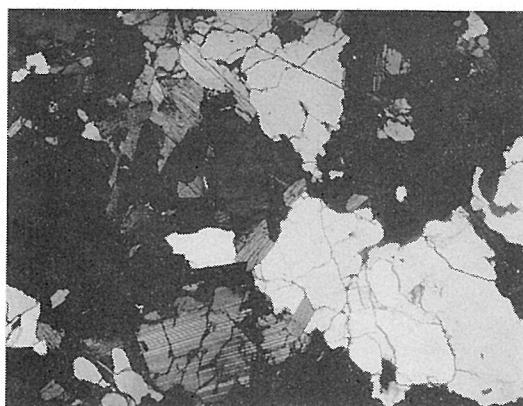
2. 大塚陵墓参考地のごぼ石(1)（北西から）



3. 大塚陵墓参考地のごぼ石(2)（北から）

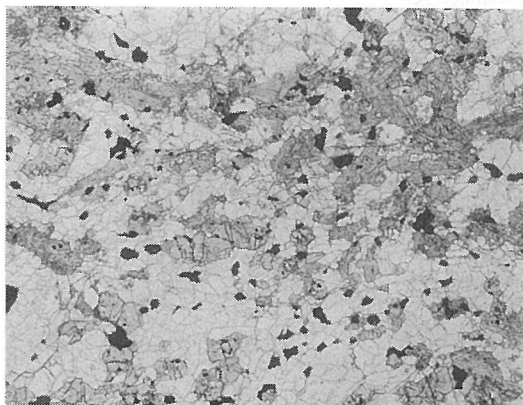


1

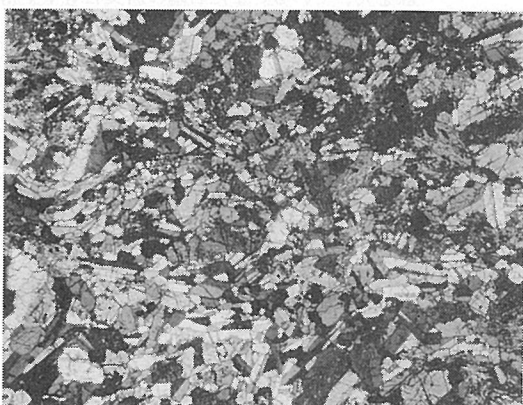


2

大塚陵墓参考地ごぼ石（A）。比較的粗粒の石英・斜長石を示す。黒雲母の集合が多数の葉片状結晶の集合から成る。これによって、黒雲母石英長石岩と区別される。

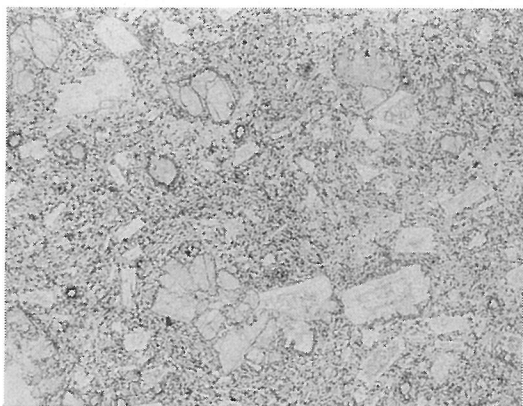


3

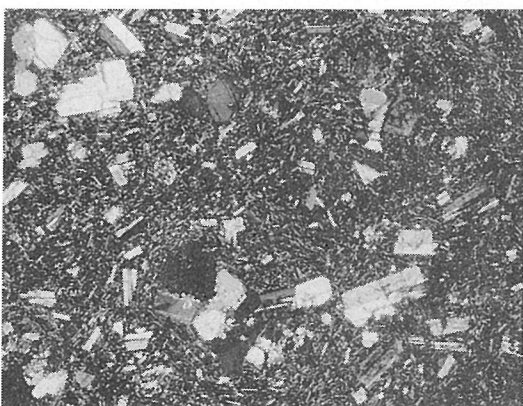


4

大市墓「葺石」（A-6）。伸びた粒状の斜長石がやや定方位配列をなし、その間に角閃石によって囲まれた斜方輝石が見られる（ほぼ中央）。



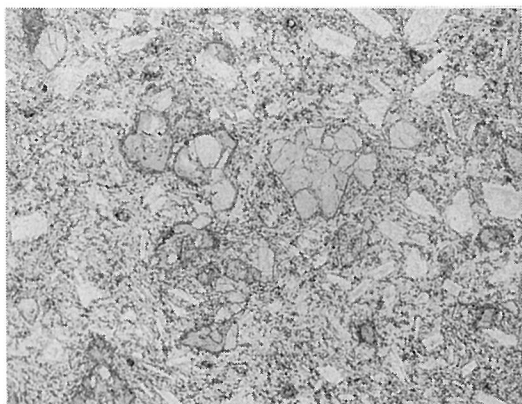
5



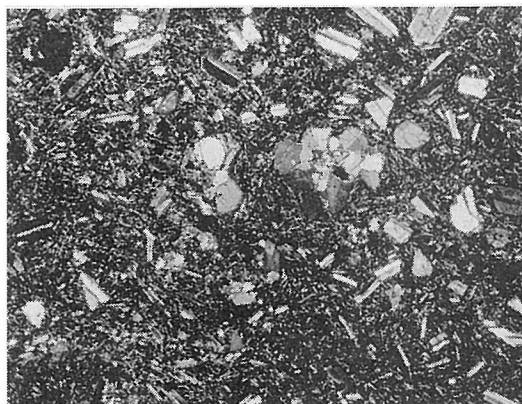
6

大市墓「葺石」（E-3）。磁鉄鉱の暗色縁によって囲まれた単斜輝石斑晶と斜長石斑晶とを示す。同質の単斜輝石橄欖石玄武岩と比べて、橄欖石の量の多さや磁鉄鉱縁の発達程度、あるいは石基の組織など多少の差がある。

大塚陵墓参考地所在ごぼ石、大市墓の「葺石」の顕微鏡写真（奇数番号は単ポーラー、偶数は十字ポーラーである。なお、スケールは全て横6.5mmに統一されている）

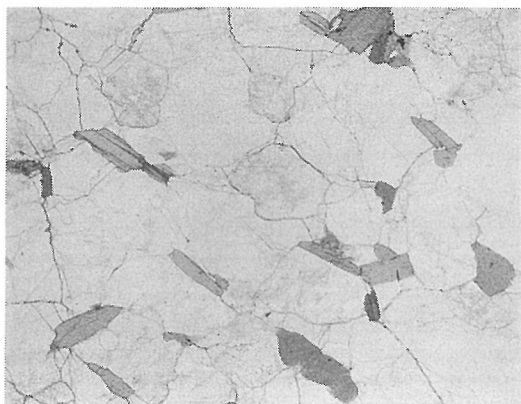


7

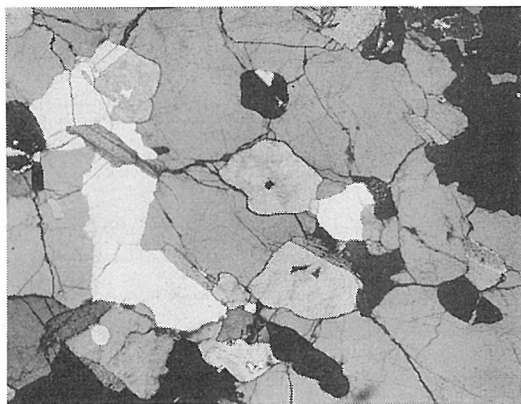


8

大市墓「葺石」(G)。前項と比べて比較的橄欖石の多いもの。橄欖石は褐黒色のノントロン石や黒色の不透明鉱物によって置換されている。ほぼ中央にある単斜輝石の集合は黒色の縁を欠いている。また石基の斜長石もやや粗粒で結晶が長い。

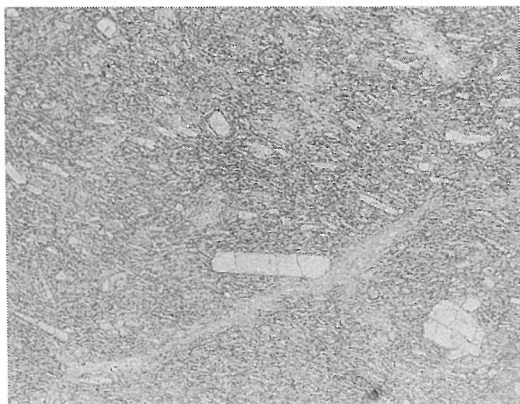


9

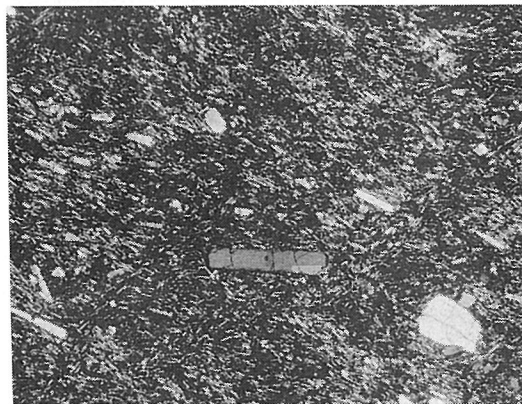


10

衾田陵「葺石」(I-1)。花崗岩と比較して、輪郭のギザギザの少ない粗粒の石英とこれによって取り囲まれる正長石の結晶粒を示す。黒雲母はあまり集合を作らず、色はやや赤味を帯びる。



11



12

衾田陵「葺石」(M-1)。やや方向性のある石基中に斜長石の配列を示す。中央は斜方輝石の斑晶で、中程度の大きさのもの。左右に通るやや淡色の部分は分解物のノントロン石からなる。

大市墓および衾田陵の「葺石」の顕微鏡写真(奇数番号は単ボーラー、偶数は十字ボーラーである。なお、スケールは全て横6.5mmに統一されている)